

YOUTH ユースサービス SERVICE

若者を考える、若者と考える

若者と支援者をつなぐ機関誌
VOL.
19



若者の無限のアイデアとパワーで、
子どもたちに大人気！！

CLUB ATTRACTION



職員のスキルアップに力を入れて



ワカモノの定義

暮らしづくりネットワーク北芝スタッフ
松村 幸裕子



高校生のときに出会ったユースサービス協会
とのお付き合いも14年目になり、もうすぐ協会の
定義としての「青少年」の枠から出ようとして
います。

「青少年」「青年」「若者」など、10代から30
代くらいまでの人を指す言葉は、日本国内でも
行政によってどの年代、層を指すのかまちまち
です。自分自身が青少年なのか、若者なのか、
意識しながら生活している人はあまりいないで
しょう。

以前、ドイツを訪れた時に、「若い大人」と訳
される層がいることを知りました。「若い大人」
は、無知であったり、サポートが必要な大人の
こと。大人という幅広さの中で「若い」という
カテゴリーがなされているだけで、きちんと
大人であることがとても印象深く感じました。

日本の中ではこどもから大人への移行期の一
つとしかとらえられてこなかった10代から20
代の様相。日本でいう「若者」とは何者なのか、
はっきりとさせていく議論が始まったこれから
がおもしろくなりそうです。

(京都市ユースサービス協会理事)

イラスト 厚焼サネ太

14

12

10

8

7

3

特集 新たな事業展開に向かって

ねっとわーく 特定非営利活動法人 京都舞台芸術協会

中学生の学習支援ひろがる

（5年目の課題と展望）

若者の無限のアイデアとパワーで、
子どもたちに大人気!!

CLUB ATTRACTION

青少年活動センターのページ
職員のスキルアップに力を入れて

ユースかわら版

ユースシンポジウム2014

『動き出す、わたしのワカモノガタリ』 ほか

[表紙の花] ハナキリン

トウダイグサ科の常緑低木。原産地はアフリカのマダガスカル島。茎にとげとげがある多肉植物。茎は太くて乾燥に強く、花も葉っぱも主に茎の先端につく。花に見えるものは「苞(ほう)」と呼ばれる葉っぱが色づいたもの。

ユースサービスの理念

子どもから責任ある大人へと成長する青少年を支援しています。

家庭、学校、地域社会、職場ほか、青少年が自主的な活動場面への参加を通じて、社会と交わり、自身の興味や関心を豊かにし、必要に応じて、助言、情報、または多様な人的・物的資源が得られるような機会を提供します。

最短で確実に高卒資格取得!

高卒資格

第一学院高認予備校の特長

- 親身なサポート
担任(チューター)による、学習状況のアドバイスや相談が受けられるから安心
- 選べる学習スタイル
通学科 通信科

高卒認定試験合格者数
12,502名
(平成17年度~平成24年度)

子供たちの未来を担う資格!

保育士

教育訓練給付制度対象

※筆記試験対策コースのみ

第一学院専門カレッジの特長

- 週1~2日程度の通学でOK!
- 実技試験対策も充実!
- 科目を選んで受講できます!

介護福祉士への第二步!

実務者研修

教育訓練給付制度対象

受講料例
旧ホームヘルパー2級修了者
120,000円(税別)※教材込

早期受講キャンペーン
100,000円(税別)

あなたのキャリアアップをお手伝いします。

第一学院高認予備校 京都校 [通学科 通信科] [全国36校]

高卒資格ご希望の方 **TEL 0120-936-358** www.daiichigakuin-kounin.jp
受付時間:9:00~21:00(日・祝除く) 第一学院高認 検索

第一学院専門カレッジ 京都校 [全国36校]

保育士・実務者研修ご希望の方 **TEL 0120-936-422** www.daiichigakuin-college.jp
受付時間:9:00~21:00(日・祝除く) 第一学院専門カレッジ 検索

新たな事業展開に向かって

安保新理事長迎え 飛躍の年

新体制の京都市ユースサービス協会

京都市の青少年活動施設は、若年勤労者の余暇・福祉施設として活用されていた勤労青少年ホーム（青年の家）から、中学生まで利用幅を広げた7青少年活動センターとして、現在、京都市ユースサービス協会が業務を受託し、多様な施設利用、事業運営をしています。



京都市ユースサービス協会は、ユースサービスの理念のもと、1988（昭和63）年3月に設立、2012（平成24）年に公益財団法人に移行しました。京都市内7カ所の各青少年活動センターは、それぞれ個性的な施設で、地域社会や若者のニーズを採り入れた居場所事業や地域交流事

業、相談業務を行っています。

2006（平成18）年には、無業の若者を就業にいざなう機関として国から協会へ「地域若者サポートステーション」、2010（平成22）年には「子ども・若者総合支援業務」をそれぞれ委託され、専門的な相談支援事業が加わって、さらに業務が多様化してきました。

協会はさきごろ、設立26周年を迎えました。さる6月の役員会で設立当初から理事として、さらにここ11年間にわたって理事長を務められた遠藤保子立命館大学教授が勇退され、理事の安保千秋弁護士が新理事長に就任しました。安保新体制がスタートし、役員員一体となって飛躍的な事業展開が期待されています。

このトップ特集では安保新理事長をはじめ、執行理事の小嶋常務理事・事務局長、水野常務理事・事業部長と岡本新理事・総務部長に、それぞれの立場から決意を表明していただき、今後のユースサービスの認知向上に取り組んでいきたいと考えています。

ごあいさつ

京都市ユースサービス協会

理事長 **安保 千秋**



京都市ユースサービス協会は2012年、公益財団法人に移行し、今年3月には設立26周年を迎えました。遠藤保子前理事長は、協会設立当初から理事に就任され、専務理事を経て2003年から理事長として協会の運営に尽力されました。若者が自主的な活動を通して、成長への経験の機会を持てるように支援していくというユースサービスの理念は、いわゆる若者対策における社会の発想の転換をもとめ、協会としては自立支援の先駆的活動を行ってきました。遠藤前理事長が退任されるにあたり、その先駆的な視点と継続的な

活動に深く感謝申し上げます。

さて、現在の若者は、どのような思いを抱いているでしょうか。平成26年度版「子ども・若者白書」では、日本を含む7カ国の13歳から29歳の男女を対象に調査したところ、「自分自身に満足をしている」と回答した人の割合は、日本が最下位で45・8%、他国は70%を越えました。「将来に明るい希望を持つている」という人の割合も、日本が61・6%で最低で、他国は80%以上でした。「自分に長所がある」68・9%でも最下位であり、海外と比べ、日本の若者は自分に自信がなく、将来に希望がもてないという姿が浮かび上がりました。一方、自己肯定感が高い若者の特徴を探ったところ、家庭、学校、職場での満足度の高さと関わりがありました。この国際比較からも、若者が家庭、学校、地域社会、職場等のあらゆる活動場面への参加を通して、成長への経験の機会を持てるように支援をしていくことが日本の社会に求められていることがよくわかります。

協会は、京都市内7つの青少年活動センターとともに、各地域での特徴を生かしながら、様々な自立支援活動を展開しています。しかし、協会の認知度は、決して高いとはいえません。社会全体で若者支援に取り組むためには、協会の活動を広く知ってもらい、協会の協力を広く求めていくことが必要です。私は、法律実務家として、子どもや若者の

れからどのような事業が組み立てられるべきなのでしょう？

〈青少年活動センター〉

最大の課題は、「認知を広げる」ということです。若者が必要とする時に、必要なサポートを得られるようにすることが目指すところです。若者の居る場に近い所でサービスを展開するために青少年活動センターの機能を外だしするアウトリーチ活動が必要となります。山科地域で準備している、地域団体と協働した若者支援の事業化は、一つのモデル的な取組となるでしょう。

〈地域若者サポートステーション(サポステ)〉

若者の職業的自立支援の事業は、国の政策動向に左右される要素が強い事業分野です。それだけ社会的に注目されている。取組なのだともいえるのですが、これまで積み重ねてきたノウハウを、来所する若者の状況に対応させながら、重層的な支援として提供していくことがこれからの課題です。

〈子ども若者支援事業〉

京都市内で、ひきこもり状態にある若者は7000人を超えると推計されています。一方で、支援の窓口につながる数は、その10分の1程度ではないかと考えられます。「ひきこもっている」からすべて支援対象だ、と捉える必要はないかもしれませんが、それでも、自ら声を出さないが手助けを求めている若者

はまだまだ多いでしょう。一人ひとり丁寧に支援を進めていくことと並行して、このサービスが必要な人に届くための活動を行っていくことが求められています。

〈協会独自の事業・その他の事業〉

行政からの委託や指定管理としての事業も大きな領域なのですが、ユースサービス協会はその名に違わぬよう、若者が「本来」持っている力を信じて、それが引き出されるような機会と場づくりを行うための取組を先進的に行うことを期待されています。子ども・若者の貧困という「新しい」社会課題に対応するものとして、協会では中学生の学習支援事業に取り組んでいきますし、サービスの担い手としてのユースワーカー養成にも取り組んできましたが、これからより大きな社会課題となるだろうものとして、①学校から離脱してしまった10代の若者が社会とつながり続けること、②新たな働き方の構築にもつながる「中間的な」就労の場づくり、③若い女性の貧困・孤立への対応、を想定しています。今年はこの課題に対応した新たなサービス構築を目指したいと思います。

人権擁護や成長発達への支援活動をしていることから、これまで協会の理事、評議員を務めさせていただき、今回、理事長を務めさせていただくことになりました。京都市の若者が自分に自信を持ち将来に希望が持てるよう、役員、職員、関係者の方々とともに、さらなる自立支援活動の展開、及び、市民の理解や協力を広く求めていく活動に努めたいと思います。

若者支援へ多様な事業展開

常務理事・事業部長 **水野 篤夫**



ユースサービス協会の役割が「若者が生きやすい社会づくりを目指す」ことならば、こ

財政、組織運営上の課題

理事・総務部長 **岡本 俊則**



協会の収支の中で、行政からの委託は90%を越えています。中でも青少年活動センターの指定管理料が大きな割合を占めています。が、施設管理の部分でいえば、このところ光熱水費の値上がり等のように、頑張つて節約に努めてもなかなか費用削減にまで至らない状況があります。一方で、事業面はまだまだ工夫の余地が大きいと考えています。もちろん単に事業費を削るだけで何もしないのでは、本末転倒になってしまうのですが、内容から比べて見合うだけの参加費を設定することができるよう目指すことは必要なことだと思っております。また、外部助成金を獲得して新たな事業展開につなげたり、以前だったら

コピー代や印刷代による収入があったように、それに代わる新たなサービスで収入を得たりと、収入源を多角化することも必要なことでしょう。もう一つ、大きな取組課題があります。青少年活動センターは、若者だけでなく育成団体や一般の方たちにも使ってもらっていますが、そうした幅広い世代の人たちに青少年活動センターや協会、そして若者の理解者（シンパサイザー）になつていただき、有形無形の協力（寄付や協賛も含め）を継続的にいただくことです。それも、これから進めていかなければならない重要な取り組みです。

協会が、組織運営のビジョンを掲げ、それを具体化する計画を実行し、評価を行つていく上で、一番大事なのは“人”と“情報”だといえます。人を育てるための研修を計画的に行つていくのにも、大きな予算が必要になります。将来に取り組むべき事柄を見通していく、社会的に求められるだろうことを先取りしていく、つまり絶えず情報を広く得ていくことは、調査・研究の営みだといえますが、そこにも一定の予算投入が必要です。現在の事業課題にどれだけ資金を振り向けるか？ 少し先の社会課題に対してどのような投資をしていくのか、組織維持のためにはどの程度のお金を確保していくのか？ 要素はさまざまです。内外の知恵を集め、協会の若い世代の意見をききながら、明確な目標をもち、誠実な組織運営を行つていきたいと考えています。

協会が目指すものは何か

常務理事・事務局長 小嶋 薫



財団設立当初は、野外活動や文化・芸術活動、ボランティア活動等のグループ（サークル）活動が活発に行われた時代にあたり、協会の活動もグループの主体的な活動を支援することが主眼でした。しかし、26年を経た現在、若者を取り巻く状況は大きく変化し、雇用環境の悪化、長期不況、グローバル化の浸透等を背景として、職業的自立の難しさ、貧困問題とそれらとも関連した孤立化など、総じて若者にとって生きづらい、「自立しにくい」時代になつてきているといえます。

同時に、少子高齢化や年金、介護の問題、地域コミュニティの弱体化？ の問題など、

若者だけにとどまらない課題とそれらは連動し、「青少年」活動団体や支援者だけで、若者の生きづらさを軽減させることは難しくなっています。その意味で、協会が単独でできることは既に限界を迎えていて、地域・学校・企業・市民活動など様々な団体と協働しながら包括的に若者の成長支援を目指すことが不可欠になっています。

青少年活動センターは、2013（平成25）年度に48万人あまりの人に利用していたが、地域若者サポートステーションでは、延べ3520件の相談を受け、子ども若者支援事業においても441件の相談を受け、95件のケースに個別的な支援を行いました。が、まだまだ広く市民に知られているとはいえない現状があります。必要な支援やサービスを必要などころに届けられるよう、様々な仕掛けを行いながら、若者が本来持っている力を発揮し、社会の一員として参画していくことができる社会づくりを、力を合わせて目指していきたいと考えています。若者の力が社会を創る”とユースサービスは考えているのです。



おひらき

特定非営利活動法人 京都舞台芸術協会

●ミッション

「舞台芸術、個と個を繋いで大きな動き」

●代表者

特定非営利活動法人
京都舞台芸術協会
理事長 柳沼昭徳



●設立年月日

平成14年6月24日

●わたしたちの活動

特定非営利活動法人京都舞台芸術協会は、京都で演劇や舞踊、パフォーマンスなど舞台芸術全般に関わる創作環境や、発表環境をよりよくするために実演家たちによって1990年代から緩やかに形成され、2002年に特定非営利活動法人となった組織です。

組織、といつと少し固いイメージがありますが、芸術家が100人集まれば同じ数だけの異なる作品性や方法論、価値観が存在するので、交

流をしないで
おこうと思え

ばしないで済んでしまう人々が、自分の作品のことはひとまず横に置いて、共通して抱える悩みや問題を解決するために膝を突き合わせて話してみようじゃないかと集まったのがその始まりです。

ここで協会発祥とも言える稽古場問題をご紹介します。京都舞台芸術史上1990年代と言えば、京都在住の劇作家が戯曲賞を続けて受賞するなど、全国的に注目された、いわば豊作期に当たりますが、創作環境はと言つと発展途上、貴重な稽古場だった青年の家(現在の青少年活動センター)は常に飽和状態、利用の抽選にもれた劇団やダンサーたちは大学構内に忍び込んで稽古したり、時には御所や船岡山公園や鴨川の河川敷で稽古したり…。そんなお世辞にも恵まれているとはいえない状況を打開しようと、実演家が一人ひとり声を掛け合つて集まり、そして運動を行ったことによつて、明倫小



愛知県芸術文化振興事業団との交流企画「AAFリージョナル・シアター 2002～愛知と京都 Vol.2～」
撮影=安井豊彦

学校跡の京都芸術センター設立をはじめとする創作環境の整備へと実を結びました。初めは個人の小さな声だったものがつながつて連帯することで大きな力となり、やがて行政や社会をも動かす、この原体験は、10年以上たった今でも協会の礎として息づいています。

現在、京都の舞台芸術シーンは協会のみならず様々な人や組織の創意工夫と努力によつて国際的に認知されるまでに成長を遂げています。あらかたの環境が整つて久しい今、京都舞台芸術協会ではさらなる可能性を見出すため、ダンスと演劇、京都と他都市、若い世代と中堅世代、舞台芸術と社会、初心者と熟練者といったよつにジャンルや場所や年齢など立場の異なる人同士の垣根を越えた出会いの場づくりに取り組み続けています。はじまりがそつであったように、これからも私たちは個と個をつなぎ躍動する媒介でありたいと考えています。



交流会の様子

住所 〒600-8127 京都市下京区梅湊町 83-1
京都市市民活動総合センターメールボックス No.47
URL <http://kyoto-pa.org/>

若者の無限の アイデアとパワーで、 子どもたちに大人気!!



CLUB ATTRACTION
理事長 田中 洋一

今日、便利さを追求した結果、様々なネットワークやツールに溢れ、目まぐるしい成長と変化があり、新しい生活空間や文化、考え方、環境などが生み出されています。その中であえて少し逆行し、旧来から大切にしてきた“人と人の繋がり”や“自然や大地、先人の知恵にあふれた綿密なコミュニティ”を今の時代に合わせて、取り戻したいと考え活動している若者の団体をとりあげました。

「CLUB ATTRACTION（クラブアトラクション）」は4年前、大学1年生の時に作りました。当時は、ぼんやりと考えていた「地域活性化」をテーマとして立ち上げ、6人の友人と、実現もできないようなイベントを次々に打ち立てて、運営を開始しました。主に、教員を目指す若者ばかりでしたので、子ども達を対象のキャンブ事業などを中心に実践してきました。実際に始めてからの活動は大変なものでした。企画しても参加者やスタッフとなる学生が集まらない、赤字という結末、実現すらできないイベントも半分以上あり、年間で延べ100人程度の参加者しかいませんでした。2012年から、様々な人の助けやチカラをお借りして、活動計画を保守的なものから攻めの姿勢に切り替えました。



達と農業体験をしたい”など、できるかできないかではなく、やってみたいと思う面白い企画をどんどん出しても構いません。活動している学生からは、「枠にハマっていない」「こども達に自分の企画がダイレクトに実現できる」「ほんまにぶつとんでる」という声が上がってきます。

面白いイベントは、開催許可を出します。そして、保護者の方が安心できて、かつ、安全度や注目度の高いものになら、リスクと予算を抑えることを意識し、アイデアを実現できるように、対外調整しています。実際に行った「ぶつとんで」内容は、大学生が企画し、世界遺産高野山でキャンプし、お寺に泊まったり、本気の肝試しをしたりしました。また、宇治や祇園・石山寺・嵐山など観光で有名な場所をこども達にミッション型のプログラムをつくり、クリアしながら、源氏物語や歴史を学ぶことが出来る企画、スタッフが街中で様々なストーリーに登場するキャラクター（金太郎、カチカチ山の狸、花咲か爺さん、さるかに合戦、桃太郎、鶴の恩返



大はしゃぎします。根底には「自分たちが楽しくないものを企画しても、こども達にはうけないし、堅苦しい内容のものを地域の方に話しても伝わりません」。こどもから、「お兄ちゃん、お姉ちゃんが僕たちの友達」という言葉を聞いた時に、「この活動を続けていてよかった」と思えるのです。彼らと共に悩み考えることで成長し、自身の生きる糧となっています。私は、失敗も成功も含めて、こういったプロセスが社会性を持つリーダーシップを育み、チームでの協同作業をする中でおきる様々な問題事例を体感することで、人間的成長の可能性を広げられると考えています。

考え、いいアイデアを思いつくと、こども視線にあわせて真剣に写真が撮られたりもしました。こどもも目線にあわせて真剣に（しなど）に本気で変装するイベントもしました。このようなイベント時には、地域の人達だけでなく観光客にも幾度と声をかけられたり、写真を撮られたりもしました。

大はしゃぎします。根底には「自分たちが楽しくないものを企画しても、こども達にはうけないし、堅苦しい内容のものを地域の方に話しても伝わりません」。

私たちが、これからも、地域の人達のまちづくりや、お母さん達の子育て、そして、若者



年までこまで大し、これだけ多くの人達が集まる理由は諸説あると思います。がむしゃらにやってきたので、検証もままなりません。考えられることは、アイデアがそのままカタチになることと自分が学生達にとってのやりがい繋がり、「やってみたい!」という若者が集まってきたのだと思います。彼らには、ルールを作り過ぎない環境で、自由に活動してもらっています。企画してもらおう上で大切にしていることは、「こども達と一緒にバカになってやれる、うちの団体にしかできないことをやる!」ということです。

例えば、「ショッピングモールを借り切って、そこで鬼ごっこをする」とか「遊んでいる公施設でかくれんぼする」畑を借りてこども



CLUB ATTRACTION
H P : <http://www.club-attraction2525.com/>
Facebook・ツイッターも随時更新中!
理事長 田中洋一
TEL : 080-3821-7146
E-mail : 41.utan@gmail.com

若者の無限の アイデアとパワーで、 子どもたちに大人気!!



CLUB ATTRACTION
理事長 田中 洋一

今日、便利さを追求した結果、様々なネットワークやツールに溢れ、目まぐるしい成長と変化があり、新しい生活空間や文化、考え方、環境などが生み出されています。その中であえて少し逆行し、旧来から大切にしてきた“人と人の繋がり”や“自然や大地、先人の知恵にあふれた綿密なコミュニティ”を今の時代に合わせて、取り戻したいと考え活動している若者の団体をとりあげました。

「CLUB ATTRACTION（クラブアトラクション）」は4年前、大学1年生の時に作りました。当時は、ぼんやりと考えていた「地域活性化」をテーマとして立ち上げ、6人の友人と、実現もできないようなイベントを次々に打ち立てて、運営を開始しました。主に、教員を目指す若者ばかりでしたので、こども達対象のキャンブ事業などを中心に実践してきました。実際に始めてからの活動は大変なものでした。企画しても参加者やスタッフとなる学生が集まらない、赤字という結末、実現すらできないイベントも半分以上あり、年間で延べ100人程度の参加者しかいませんでした。2012年から、様々な人の助けやチカラをお借りして、活動計画を保守的なものから攻めの姿勢に切り替えました。



達と農業体験をしたい”など、できるかできないかではなく、やってみたいと思う面白い企画をどんどん出しても構いません。活動している学生からは、「枠にハマっていない」「こども達に自分の企画がダイレクトに実現できる」「ほんまにぶつとんでる」という声が上がってきます。

面白いイベントは、開催許可を出します。そして、保護者の方が安心できて、かつ、安全度や注目度の高いものになら、リスクと予算を抑えることを意識し、アイデアを実現できるように、対外調整しています。実際に行った「ぶつとんで」内容は、大学生が企画し、世界遺産高野山でキャンブし、お寺に泊まったり、本気の肝試しをしたりしました。また、宇治や祇園・石山寺・嵐山など観光で有名な場所をこども達にミッション型のプログラムをつくり、クリアしながら、源氏物語や歴史を学ぶことができる企画、スタッフが街中で様々なストーリーに登場するキャラクター（金太郎、カチカチ山の狸、花咲か爺さん、さるかに合戦、桃太郎、鶴の恩返



（しなど）に本気で変装するイベントもしました。

このようなイベント時には、地域の人達だけでなく観光客にも幾度と声をかけられたり、写真を撮られたりもしました。こども目線にあわせて真剣に考え、いいアイデアを思いつくと、大はしゃぎします。根底には「自分たちが楽しくないものを企画しても、こども達にはうけないし、堅苦しい内容のものを地域の方に話しても伝わりません」。

こどもから、「お兄ちゃん、お姉ちゃんが僕たちの友達」という言葉を聞いた時に、「この活動を続けていてよかった」と思えるのです。彼らと共に悩み考えることで成長し、私自身の生きる糧となっています。私は、失敗も成功も含めて、こういったプロセスが社会性を持つリーダーシップを育み、チームでの協同作業をする中でおきる様々な問題事例を体感することで、人間的成長の可能性を広げられると考えています。

私たちは、これからも、地域の人達のまちづくりや、お母さん達の子育て、そして、若者



年でここまで拡大し、これだけ多くの人達が集まる理由は諸説あると思います。がむしろにやってきたので、検証もままなりません。考えられることは、アイデアがそのままカタチになることと自分が学生達にとってのやりがい繋がり、「やってみたい!」という若者が集まってきたのだと思います。彼らには、ルールを作り過ぎない環境で、自由に活動してもらっています。企画してもらおう上で大切にしていることは、「こども達と一緒にバカになってやれる、うちの団体にしかできないことをやる!」ということです。

例えば、「ショッピングモールを借り切って、そこで鬼ごっこをする」とか「遊んでいる公施設でかくれんぼする」"畑を借りてこども

のこれからのあり方を考え、大学生や私たちの団体がコミットしたり、コラボしたりし続けたいと考えています。「家庭を大切にしよう。隣人や友達を大切にしよう。地域を愛そう。自身を愛そう」、みんなが繋がり、地域の魅力が光る未来を作りたいと考えています。

私たちは、俗にいうゆとり世代の若者達ですが、「ゆとり」や「ざとり」なんていう言葉は背負っていません。夢と希望に満ちあふれた人達が、このCLUB ATTRACTIONというツールやネットワークを使い、大学生のアグレッシブなパワーと、地域にある秘めた魅力を喚起し続け、たくさん地域の人達やこども達の思いや夢を背負い、感謝の気持ちを忘れずに、チカラの限り活動が続けていきたいと思っています。



CLUB ATTRACTION

H P : <http://www.club-attraction2525.com/>
Facebook・ツイッターも随時更新中!
理事長 田中洋一
TEL : 080-3821-7146
E-mail : 41.utan@gmail.com

青少年活動センターのページ

職員のスキルアップに力を入れて

京都市ユースサービス協会は1988（昭和63）年に財団発足以来、ユースサービス協会の理念を基に施設運営や事業展開を図ってきました。そこには、ユースワーカーと呼ぶ専門職員（以下、「ワーカー」と略）が関わっています。社会教育を学び、さまざまなボランティア経験をもって入職するワーカーもいますが、職に就いてからも知識とスキルのブラッシュアップ、新しい経験や資格が必要になってきます。

青少年に関わるこの仕事は、協会発足当時からすると、内容が随分と変わってきています。

当初は、青少年をグループとか集団で扱うことが多く、グループ運営、自身のリーダーシップや仲間づくりの手法に焦点があたっていました。研修の内容もグループワークやリーダーシップ理論、レクリエーションのスキルなど集団を扱うことに重点が置かれていました。2001（平成13）年に青少年活動センターと名称を変更する頃には、青少年個人にも焦点があた

り、居場所というキーワードも出はじめ、カウンセリングマインドや相談スキルに注目があたり始めました。2006（平成18）年にサポートステーション、2010（平成22）年から子ども若者支援業務の受託とともに、より一層個人への支援の機会も多くなり、研修内容も個人のサポート、支援の方向へと変わっていきました。

当協会において、どのような研修が行われているかを次に紹介します。

○新採研修

入職してすぐに受ける研修です。社会人として、新人ワーカーとしての心構えや各現場の業務内容、協会の歴史について学びます。そして、相談業務の基本である傾聴について具体的にロールプレイを通し、その技法を学びます。

○若手研修

入職4年目までの数名がひとグループとなって、「自己理解」「支援的な関わり」「グループワーク」などのテーマを選ばし、グループを運営しながら学んでいきます。

○ポスト若手・中堅研修

各自で自己研修目標を定め、取り組んでいきます。

○シニア研修、マネジメント研修

管理職研修及び財務・総務や組織運営に関する研修ですが、今後本格的な取り組みに力を入れます。

○外部研修

ワーカー一人ひとりが業務や興味の方向性を考え、研修希望先を申告します。それに基づき、研修プロジェクトで業務への必要度を勘案し、補助額を決めて推薦しています。今年度は、下表のような研修を行っています。

社会人枠での大学院での学び	立命館大学大学院応用人間科学研究科修士課程 龍谷大学大学院（NPO・地方行政研究コース） など
学会への参加	日本臨床発達心理士会学会、社会教育学会全国研究会 など
資格の取得	精神保健福祉士、キャリア・コンサルタント、思春期保健相談士、ボランティアコーディネーション力検定 など



若手研修（相談業務）



新採研修

その他、内閣府が主催する欧米のユースワークを学ぶための海外研修や、ひきこもり支援やさまざまな障がいに関わる、子ども若者総合支援事業に絡む研修会が開催されます。

私たちはプロフェッショナルなワーカーとして青少年に関わっていますが、ワーカーの切り口は広く、地域やさまざまなボランティアグループにおいてボランティアユースワーカーも存在します。当協会では、「ワーカーらしい考え方」ができる人材を育成するユースワーカー養成講座を毎年8月と3月に開講しています。全国的にも珍しい専門講座で、最近の参加者は京都にと

どまらず、東海地方や関東からもお越しいただいています。8月にその基礎講座を開催することになっています。

（研修プロジェクトリーダー 岡本俊則）

多様な視点で意見交換

全体研修会は京都市ユースサービス協会の全ての職員が集まる年一回の機会です。全員の顔合わせとともに協会についての共通認識をもつことを目的として、グループ討議を中心に運営しています。今年のテーマは「若者が生きやすい社会作りのためにユースサービスができること」で、これまでの活動の何が有効でどんな役割を果たすのかを話し合いました。

グループでは多様な視点から議論されました。職員のキャリア形成を支える仕組みをどう作るか。若者たちのメディアとの関わり方は変化しているのか。規範意識が低い若者との関わり方の試行錯誤。外郭団体として何を社会に発信するのか。地域社会で若者がつながりを見つける方策は。個人の経験の蓄積をチームで活かす方法。短い時間でしたが、熱心な討議を通じて、相当にキャリアの差がある中堅、若手の職員たちが、それぞれの考えを深めるきっかけになったのではないかと思います。

（25年度研修プロジェクト 大場孝弘）



全体研修会

ユースがゆら版

事業案内

ユースシンポジウム 2014 『動き出す、わたしのワカモノガタリ』

昨年度好評を得た「参加者一人ひとりの対話型の場」を今年度も開催します！企画そのものを若者といっしょに創っています。「多様な世代の人と話せる場にしたい」「不器用でも楽しい、多様な物語と接することによってそれぞれのわたしの物語に気付くきっかけ作りができれば」。若者プロデュースの語りの場、みなさまのご来場をお待ちしています。

開催概要

中京青少年活動センターにて
9月28日(日)10～17時
①全体会 ②トークフリマ・ブースコーナー ③セミナー
青少年無料、一般500円/人
問合せ：京都市ユースサービス協会事務局シンポジウム担当
TEL 075-213-3681 E-Mail sympo@ys-kyoto.org

「はじまるさろん」

伏見青少年活動センターでは、地域若者サポーターの方と、子育てや子どもの自立に悩む保護者の方や社会とのつながりを求めている方のご家族、自立に悩む若者を支えている皆さんが、お茶を飲みながらゆったりと語り合う「はじまるさろん」を実施しています。

9月13日、12月13日、3月14日の第2土曜日14～16時に開催します。気軽にお越しください。

「しもせいフェスタ」を実施します！

下京青少年活動センターの魅力を発信するお祭りを10月4日(土)に実施します。今年のテーマは、「青少年！7色の活動」と「安心・安全・笑顔あふれる地元商店街の魅力！」。地元商店街との連携企画や青少年のパワーを発信するステージやブースなど、楽しい企画が盛りだくさんです。皆さん、お誘い合わせのうえ、ご来場ください。



情報誌「ヒガシガシ」 2014年夏号 (Vol.42) 配布中☆

東山青少年活動センターでは、季刊誌として「ヒガシガシ」(毎号2,000部)を発行しています。センターの情報だけでなく、東山区でものづくりや表現活動をしている人を取り上げたり、利用しているグループを紹介するページ、東山の気になる噂を検証するコーナーなど、東山の魅力を発信するフリーペーパーです。

青少年活動センターをはじめ、京都市内の各大学やギャラリー、街中にあるカフェやショップでも配布中！ぜひお手にとってみてください。



「野菜づくりから仕事に近づく～働きながら、働くことを学ぶ15週間～」

北青少年活動センターで、中間的就労プログラムを7月下旬から実施します。過去の参加者は農作業を通して、生活リズムを整えたり、自分の強みに気づく機会になり、進路が決まった若者も(就職、進学など)います。一緒に農作業をして野菜をつくりながら、働くことについて考えてみませんか？

「ぐるっとふれ愛まち フェスタ in 山科」

今年も11月上旬に開催します。この祭は山科駅の地域ぜんぶが“ぐるっと”会場になり、商店街や山階児童館など近隣の関係機関が様々な催しものします。山科青少年活動センターもテニスコートをメイン会場として「やませいまつり」を開催します。当日は、青少年が中心となり、地域に住む人たちと一体となって祭をつくりあげていきます！

事業レポート

西陣ひと・まち・もの語り



北青少年活動センターでは、「西陣」の思いを数珠つなぎしています。緋加工師の徳永弘さんにインタビューをしました。

着物が主流であった時代に、「矢絣(やがすり)」を代表とするお召と呼ばれる絣織が生まれ、現在でも卒業式の袴と合わせるのが定番です。120軒以上あった加工業者は、現在は7軒になりました。「技術だけでなく、仕事をする心持ちと誇りを伝える」という徳永さんの思いは、お弟子さんを通じて、未来へとつながっていきます。

サラダボウル Project 「ウェルカムパーティー」

日本人、留学生、外国にルーツのある青少年がともに、イベント企画運営を通して、多文化共生社会をめざすサラダボウル Project。5月25日(日)に伏見青少年活動センター&伏見港公園で「ウェルカムパーティー」を実施しました。

今回はみんなで日本食作りチャレンジ！日本の食文化を再発見する機会となりました。参加者からは「サラダボウルのメンバーになりたい！」との声も聞かれ、大盛況でした。



20代話せるプログラム 「どんぶりの会」

南青少年活動センターでは、5月16日(金)「どんぶりの会」を開催しました。学生から社会人までの20代の男女7名が参加し、準備したものをういてオリジナルのどんぶりを作って食べながら交流しました。中には、「食事は一人か友人と食べる程度なので、大人数で食べるのは久しぶり」と嬉しそうに話す参加者もいました。

読者の声

いつも読んでいます。18号の特集で、今の大学生はまとまっているなと感じました。魚屋のあと継ぎとして育ったこともあり、若者にはやりたいことに挑戦してほしいと思っています。大人として、その環境を整えることを大切にしていきたいと思います。

下京区 魚晴
岸田 智之

7つの青少年活動センター

東山青少年活動センター

住所：〒605-0862 京都市東山区
清水5丁目130-6 東山区総合庁舎2階
TEL：075-541-0619
FAX：075-541-0628
URL：http://www.ys-kyoto.org/higashiyama/

南青少年活動センター

住所：〒601-8441
京都市南区西九条南田町72
TEL & FAX：075-671-0356
URL：http://www.ys-kyoto.org/minami/

北青少年活動センター

住所：〒603-8165 京都市北区紫野
西御所田町56 北区総合庁舎西庁舎3階
TEL：075-451-6700
FAX：075-451-6702
URL：http://www.ys-kyoto.org/kita/

山科青少年活動センター

住所：〒607-8086
京都市山科区竹鼻四丁野町42
TEL：075-593-4911
FAX：075-593-4916
URL：http://www.ys-kyoto.org/yamashina/

伏見青少年活動センター

住所：〒612-8062 京都市伏見区
鷹匠町39-2 伏見区総合庁舎4階
TEL：075-611-4910
FAX：075-604-4910
URL：http://www.ys-kyoto.org/fushimi/

中京青少年活動センター

住所：〒604-8147 京都市中京区東洞院通
六角下ル御射山町262
TEL：075-231-0640
FAX：075-231-1231
URL：http://www.ys-kyoto.org/nakagyo/

下京青少年活動センター

住所：〒600-8871
京都市下京区西七条北東野町90
TEL：075-314-5636
FAX：075-314-5640
URL：http://www.ys-kyoto.org/shimogyo/

開館時間 平日：午前10時～午後9時
日祝：午前10時～午後6時

休館日 水曜日・年末年始
(12/29～1/3)

本誌『ユースサービス』の掲載広告を募集します！

当協会編集制作刊行の情報誌「ユースサービス」は、若者とともに若者の現状や未来を考える媒体として、好評を得ています。本誌を通して、企業・団体の広告宣伝活動にご活用いただけます。

発行部数…3,000部(年間3回発行)

配布先…京都市内すべての中学校、京都府内の高等学校や大学、関係する行政機関、厚生労働省、内閣府など中央省庁、全国の地域若者サポートステーション受託団体等のNPO法人・民間団体ほか

〈広告掲載料金 オールカラー掲載〉

全1ページ(縦25.6センチ×横20.9センチ)	5万円
横1/2ページ(縦12.8センチ×横20.9センチ)	3万円
記事下1/4ページ(縦6.4センチ×横20.9センチ)	2万円

広告掲載のお問い合わせ、お申込みは、

京都市ユースサービス協会事務局担当：岡本(電話075-213-3681、Fax075-231-1231)まで。
次回、12月1日付発行の20号への広告掲載申込は9月末日までお願いします。

発行
公益財団法人
京都市ユースサービス協会

〒604-8147
京都市中京区東洞院通六角下ル御射山町262
京都市中京青少年活動センター内
tel：075-213-3681
fax：075-231-1231
E-mail：office@ys-kyoto.org
HP：http://www.ys-kyoto.org

印刷：株式会社谷印刷所
デザイン：自然堂株式会社



夢をかなえる学校がある!

— 普通科目とコース専門科目（希望者のみ）の履修で高校卒業資格を取得

選べる4つの登校スタイル

Schooling×Style

- クラス制** たくさんの友達と接しながら学ぶ。
- フレックス制** 自分で登校する時間帯を選ぶ。大学感覚で学ぶ。
- 土曜日選択制** 指定の土曜日に登校。少人数の塾感覚で学ぶ。
- 夏冬集中受講制** 夏休みと冬休みなどに集中して授業出席して学ぶ。

※それぞれの登校スタイルは途中変更が可能です。



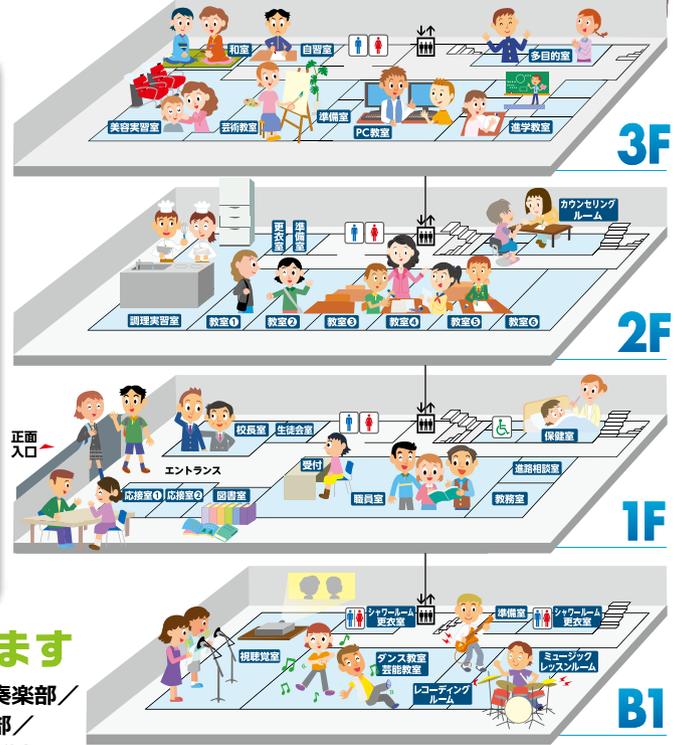
選べる15の専門コース

Special×Course

- 進学
- 調理・製菓
- 声優
- IT
- 理容師・美容師（国家資格取得）
- 動物
- スポーツ
- 外国語
- ダンス
- 美容
- ミュージック
- 芸術
- 芸能
- ファッション

NEW ●心理・教育
平成27年新規開講

※希望者のみ選択できます。
※専門コースは毎年変更できます。
※卒業単位に20単位まで認定できます。



平成 25 年 4 月新校舎完成

盛んなクラブ活動が高校生活を彩ります

マンガ研究部 / 料理部 / 写真部 / ASG 部 / 演劇部 / 茶道部 / 吹奏楽部 / 軽音部 / 声劇部 / 手芸部 / 健康増進部 / Duel Masters部 / 天文部 / テニス部 / 卓球部 / バスケットボール部 / フットサル部 / 総合運動部

生徒会・保護者会・同窓会・いちの和会（後援会）が連携して、在校生の活動を支援しています。

私たちは青少年育成を応援しています!



広域通信制・単位制・普通科

つくば開成高等学校 京都校

転入学や編入学は、随時受付します。 <http://tkaisei-kyoto.jp/> つくば開成 京都 検索

〒600-8320 京都市下京区西洞院通七条上ル福本町406 番
TEL:075-371-0020 FAX:075-371-0021

◆JR・地下鉄烏丸線「京都駅」より北西へ徒歩8分 ◆京阪「七条駅」より西へ徒歩16分

